



朝夷巡嶋記全傳第二編卷之三

東都曲亭主人編輯

初輯第十五

惡を罰き劍の山麓
善ふ慶ふ百田の宿

却後三夜。朝夷三郎義秀へ根ぬ茎平の竹輿を昇る。劍乃
山麓へと赴く。廿四日の月。夜生む。鳥夜思。思悽か。あま
とをあらん。蕉火を把せり。件の小廝。月来日來。熟る路あれ
物とも思ひ。鄉導をも。義秀こよなく。すまう。すらう。
見え。あざ肩をかえ。劍岳の麓へ。二里ある。山の上に一ヶ
あり。みちの難所。二里ある。山の上に一ヶ。山の上に一ヶ。
と向え。それより。山の上に一ヶ。山の上に一ヶ。

急と變せば根ぬ莖平こうるる果て。捷徑よひて進みける観よ途の難矣。
えども後と急ぎてぶ。その夜子の比及み劍の山麓ちくす。う
振禹瞻れば天色出づる月のけひせり。當下根助莖平へ道次又竹軒を
もうら。客人この外より。山の主が宿所へ。二四町の間より。原へ慈航寺と
山寺の近属類廢して住持す。よひて彼魔平太木へ老僧道人と逐
ふ。この廢院又落草たて。客駆りあご破損せざりて其の如く住ひゆとぞ。
ある人の下する路へいと直き不迷せゆべどもあぐらく暇ふられ也。
といふ義秀うち点びさてからむ安ら。和達へ且く樹下に体ひて暗号を
まちね。あそびと他所へ退く。越度るる人と警音。二人の小廝を
唯くと心く竹輿杖よせて。草折布て坐を右。義秀ハ口ひどく。彼慈航
寺ふまで見えず。門傾き牆破き。鎖せども甲斐す。溝埋き橋をく。

御渡易う。その為体夜目す。定みふ定みふえれども。妙く樹立ありて。昔
由緒あり梵刹と云。破牆の裾潛り。人を方へと進む程。本堂経堂
の餘波す。柱石のこまく。跌下とて歩久運。柵の色うち遠まく前画み
ゆる。庵舎ある。人の泣声。聲を秋る。暑を比す。れバ。兩戸
みよろ放す。燈燭ひと明まく。庭の芳宜を木看み。向ちくあせ
爾窺き。廣は座席の中央。ひと大を。う。粗板杖のく。推直し。唯妍
う。一個の處女を。そぶ上。小推伏。惡鬼。よ。等。一。暴漢。椅子織。乃浴衣。よ
圓括の帶。ちふ結び。緋の続。鼻襪の垂を。あ。し。處女が黒髪。ひ。ま
く。右。子。み。割肉の庖刀を。内。女郎。オ。つ。本夏を。あ。や。汝が。十。う。う
靡せん。と。ア。そ。舞。優。く。甲夜よ。機嫌を。じ。す。も。あ。き。隣ぬ。そ。許
さん。や。否。う。が。この肉刀を。あ。く。曾。と。あ。り。臍と。い。孔穿融。あ。く。囊環。よ

せんひよ歎應と髻を推動と噴むりの是山の主魔平太うべ。そが
やどるゑ列居す。優ぎ家うぬ暴暴夷眉太く。面赤きある。月額黒く。腕青き
あま。眼圓み口大見うるあり。鬚ハ虎の如く。鼻ハ猿狽又似うる事。あく旦盃を
引受く。盃盤狼藉擅み飲食ちつ。前うる一人が筋りく。俎板の端を敲き
まよ。かひ。靡罪ぢや。主とおもそくくよ。翌うじ已ホもく卑る天窗まで
可懼のほ。郡司莊司の妻又うひより。一トと愛したる皆とのを嫌へばぞ
あのよ。よ。宜府嫁り。つぐ疼目あづよ。圍房で痛目さうぶよ。よえやく。と目を
細め。喻せ共々毎びく。靡けくと責る。且則越の赤熊太三九二
中太夷守水六臭水沼太郎とく。魔平又あくね惡棍うべ。こまくが外み
八九人醉く縁頬よ臥よ。地藏和讚ふ。舞踏の唱歌。よもよぬ。おれ声
合く。子拍子うべ。唱ふもあり。又魔平太が後方や。妍き女子西三人大

をう。固扇をうく。おそくあがくをり。彼ゆとあふ畧き。本と己と分るぞ
従ふうとん夫姐板うのびき。處女アそ友鶴うも覗や。緯の為体。大江山
邊ふ人を畧し。むーの酒顛淡鬼ゆ。芳るあれ癡者かよ。義秀自向自咎
あく。早るあうか一錢め。こづらと殺くへるうべ。端迫く。をう奴們と。争ふ
易く。處女を救ふ。難い。不意ふ起く。背しき。彼魔平太を拉が。翻く
處女を救ふ。呼あうり。と尋思。退きて足か。背門のこふ。赴けら
庖福の樋戸岡たとある。おとこよと進み入る。暗く入氣。次の房と。膏
一そ。鼾の声高く。仰り。あんて。弓矢。支掌の惡棍。とぞ十餘人。前後不覺ふ
醉臥す。反吐を枕よ。あら。赤裸ふ。うら。あ。義秀へ。こくかうて。
今。奴ホを殺しう。魔平太ホ。えも。ベ。又魔平太を。争ふ。とぞ。く。伏ねる。
覚く逃亡。えり。ふせほ。と柱ふ掛る。燈蓋の灯を。搔立て。彼此を。よく視す。

此一室は三方板壁。こゝに二枚の門扇あり。やう社あまと外面より戸を推
開く庵厨ふ。赴き。春臼の上よ米三俵積の。ばとろけぬ。こゝ究竟と立よ。て。
臼の縁ふ西。タバコ。宙ふ。約々徐ゆふ。件の戸口ふ。提まく。臼と俵。ふ。はみ
うけく。肉うど用ぬ。かうよ拵へ。この臼ハ寺の物。欽米ハ究。さて。莊客们を威。と
掠奪。る。人露の命根繫んと。掠し。米ハ又。さふ。命縮る壓と。たる。因
爲て。えもつたう。ひだら。め。ち。ど。果観。面春臼の響音の物。ふ應。まう。か。ゆ。で。
う。友鶴の人心。り。ほ。し。ひ折りく。末一花。る。と。ば。る。氣。ふ。ぐ。も散。く。せ。ま。づ
彼奴ホよ。と一方を結果人。と。壯夫。が。刀の。鞘。針。湿。む。奥。な。う。声。を。よ。う。べ。そ。
抜歩。も。う。進。く。入。る。を。悲。み。う。友鶴。ハ。呵。噴。も。く。刃。へ。よ。う。と。ぬ。辱。め。辱。受。人
よ。つ。と。く。死。が。そ。と。死。じ。え。根。う。だ。り。ふ。声。を。激。一。穢。や。山。の。主。刃。を。う。く。逼。る。と。も。
山賊剪。徑。の。你。健。ふ。阿。容。そ。と。刃。を。任。せ。ん。や。活。ミ。死。ミ。と。互。ぶ。よ。く。及。ぬ。恋。と

あ。ま。う。う。あ。ふ。名。う。ハ。愚。人。と。く。殺。せ。と。罵。ま。べ。魔。平。太。あ。と。死。候。あ。と。食。ま
う。頭。髪。を。リ。下。せ。ま。く。睨。結。う。眼。の。光。り。ハ。長。庚。の。如。耀。く。魔。風。ふ。等。れ。息。呑。む。
僧。き。女。う。ほ。ぶ。れ。う。望。ふ。任。く。暇。を。と。と。せ。ん。婦。女。輩。を。見。懲。ふ。指。す。そ。び。
一。寸。試。刃。切。ふ。そ。る。が。ど。も。そ。る。と。嗟。と。ね。ひ。く。袖。ち。揚。げ。観。念。せ。よ。と。内。う。そ。
刃。の。光。り。う。共。ふ。後。方。小。掛。う。敗。簾。を。か。づ。く。落。く。く。ち。く。入。る。義。秀。ハ
あ。と。魚。の。燕。雀。と。廻。む。発。か。ひ。う。魔。平。太。が。右。の。腕。を。摧。ひ。う。ふ。下。と。令。ひ。う。
驚。た。る。う。振。え。と。こ。へ。る。き。く。と。推。棄。奴。ふ。が。ふ。利。理。の。ゆ。き。一。事。令。の。相
伴。あ。ふ。出。う。欲。と。の。う。せ。と。果。ぎ。冷。笑。ひ。鳴。乎。が。す。マ。偷。児。ど。遠。死。の。ハ。音
み。か。う。お。も。せ。う。人。近。そ。べ。今。宵。目。前。こ。ぶ。面。相。を。禮。拜。し。く。立。山。地。獄。へ。る。世。る。の。劍。の。世
土。產。よ。せ。ま。安。房。國。こ。く。一。ト。刀。ふ。六。人。の。仇。と。頸。刎。下。野。そ。そ。大。船。の。帆。柱。ふ。を。や。ま。
毒。蛇。を。殺。せ。し。大。鱗。の。浮。浪。人。朝。夷。三。郎。平。朝。臣。義。秀。と。う。こ。ぶ。吏。丈。こ。一。樹。の

をとて惡ひく。ちはあうる。婦女輦車を見ゆまく。察する所。汝ホも畠谷とて。ふをう
めのまん。そみ處女を勧り。枝と退散て。コト無候。親里へに。乃きとぞ。かれて處
女を勧らざへ。口と決して。許をとほ。とくととのそ。立是呑せよ。と腰ふ著る。
茱籠を投与れべ。婦女輦へ歎びく。友鶴を技抜き。庵福のえ入あらそ。死矣。
義秀ハとよを目送。よく快愉。ようち笑ひ。肉刀の背りく。魔平太が頭を破。と打
敵き。児賊甚麼多ひ。あや。年來人の五穀を盜。飽まで。食ひ。惡報金錢衣
裳。掠りて。煖ゆ衣。る惡報人を。報。罪き。殺。く。こちよと。せ。惡報。美姿
少年を弄畠て。才の樂。ことあ。る惡報。法師を逐ひ。精舍を撤て。あ。り。妻。ふと
ある。惡報。五逆。忽地報ひ。あ。く。十惡肉俎。ふ集。ア。ぬ。天罰。因罰。今にして。天
屠ら。き。の遲。く。と。罵。責。て。突。き。る刃。を。些。一。引。揚。く。胷。く。ぎ。と。刺。立
き。が。苦。と。叫。ぶ。声。の。下。ふ。鮮血。き。と。潰。ア。刃尖。く。俎板。の。真中。切。貫。よ。赤



太ホハその首領を奪ひて。又擬議をさき。箭箙造と射くと。とよゆく。弓より引く。切て度せ。と勝る。折み。あまざ化箭へ義秀る。う。と組板を推立て。背抜つ。右のうふある。箭矢。宙に極て投え。せば前ふ立つ。水六七。頼。あく。又打傷。主苦と叫び。そ弓を捨。仰がる。ふ。ト。か。悪棍門へ。このみ。体ふ。碎易。あく。色や。死。義秀へ。己と嘆く。組板を。す。回し。串き。苗。麻鬼。平太。元。骸。う。共。投つ。と。立並。うち。支黨の悪棍三人。打倒さ。脳蓋を破。と。く。一人へ。即死。二。入。ハ。鶴筋。腕骨。うち。碎。また。生死を。あ。と。こ。う。か。う。と。赤熊太。中太。逃ん。と。あ。み。よ。し。ひ。で。く。り。く。ら。義秀。ハ。俱利迦羅の大刀引抜て。透間も。う。と。替く。蒐。ま。バ。悪棍们も。抜合せ。推。ど。う。龍。と。替人。と。そ。の。と。れ。義秀。憤然と。眼底。瞪じ。席を蹴立て。ヨヌ勢を敵。て。ふ。ふ。め。と。あ。せ。ば。前。ふ。進。赤熊太。く。す。首丁と。打落。又。と。刃。少。脣。よ。う。幹竹割。不砍。仆。と。後。よ。内。く。沼太郎。が。刀。を。ナ。手。受。と。が。足。を。巻。と。礪。と。

蹴る。蹴。と。き。く。尻居。ふ。轉輾。起人。と。と。起。し。ゆ。と。と。と。背筋。楚。と。踏。え。て。一壓屈。と。蹠。蹴。と。目子。跳出。血。を。吐。く。と。足。を。廻。搔。く。沼太郎。戲。水。が。如。く。ゑ。ぐ。け。り。う。と。懲。を。ま。ふ。三九二。の。中。太。轂。残。され。一。六七。人の。悪棍。を。將。大。と。掛。と。や。脚。互。と。焦躁。声。よ。ヨヌ。勢。を。邇。じ。匹。支。の。勇。あ。死。先途。と。闇。う。矣。秀。ハ。や。ま。と。怒。瞬。間。み。三。四。人。城。が。と。よ。ま。と。入。と。砍。仆。せ。ば。中。太。ホ。ハ。逃。足。踏。て。衆。皆。齊。一。砍。立。と。逡。巡。の。こ。き。る。縁。類。の。縁。踏。外。と。象。棋。倒。ふ。確。と。仰。及。落。と。と。義秀。ハ。血。刀。席。薦。み。つ。死。立。と。大。組。板。を。引。提。て。縁。類。と。跳。出。轂。き。う。と。起。人。と。セ。一。中。太。を。ち。と。エ。悪。棍。们。が。背。骨。肩。腰。嫌。る。お。舉。き。壓。殺。を。類。罕。な。る。勇。力。み。一。座。の。惡。棍。数。孤。盡。と。と。死。骸。へ。算。を。奈。せ。る。ど。當。下。義。秀。ハ。生。血。よ。染。る。姐。極。死。元。骸。の。上。ふ。倒。う。け。俱。利。迦。羅。の。大。刀。と。う。あ。げ。て。う。と。半。死。半。生。る。水。六。ホ。が。首。を。刎。あ。づ。ふ。鮮。血。を。ち。拭。い。刀。と。か。を。手。鞋。み。

納々固扇を採り。脣のあこうをせしく扇だく行を納。そぞや残生る奴
を。原を結果入とひとよこらしく。危険つるふ起えり。さる程ふ彼十餘人の支黨へ
奥うる大刀音ふ驚か醒て。ふりふと慌忙き。戸を推開と出んとまゆふ寸
ちうも動後がちもく。苛て後うる前うるのみが搔退々と。推開人と諸事と掛
矢声を出へと推とも動も。あるひどくと立番ア立うるべとく。射擇。るづと時分
移との果へ衆皆根労しく。呆りと戸際又推並び頭を傾け。身又至く。
齊一吻と息をつん。宴みこよへ怪有る。とえ。や夢るくへあとづるや。と一人が
いへ皆点詠。越後の次長減がとひど。越路へひき静ましき加賀の富樫も
自國を成る。他郷の沙汰又遑ほ。然るを又けよう軍兵を向じ。今る小
奥うる人声。锣音是第一の不審。又このせ蔵屋の戸支ア六日未より素直
みく。身掛め用うちぬが神樂未うる巖戸のゆく。妙大勢たるヨヌカ

雄が。手ふ及ね。第二の不審。覺て。あづを正す。と正す。と多とも現う。バ
虚と。ふ龍え。不覺え。とそとろぬ。三方へ。みる板壁。よき。毀と。出ん
透ゆ。夢う覗う。と。うと。と。念。と。行。す。と。列。と。き。奮。轂。と。突。戦
轂。と。嘔。苦痛の。あ。雪類。を。打。と。逃。る。足。障。子。み。かる。血。ま。の。音。と。
兩の。撲。と。耳。邊。近。く。彼。あ。と。お。て。も。を。立。く。と。う。又。お。く。見。て。そ
籠。乃。う。櫻。の。獸。と。異。う。そ。せ。ふ。せ。ん。き。ぐ。へ。う。ま。と。け。ふ。中。み。小。さ。い。る。一。人。
漸。こ。う。つ。れ。く。當。ア。丁。と。拍。鳴。乎。悞。ア。疎。あり。と。戸。の。絶。と。用。ざ。う。ハ。察
も。る。所。外。百。と。物。を。積。よ。せ。置。き。と。う。入。推。用。ん。と。き。ま。ご。と。そ。房。と。功。き
時。衣。を。積。せ。櫻。牙。緩。と。戸。を。引。放。さ。び。と。う。ふ。小。物。へ。う。れ。そ。と。よ。と。下。ふ。と
か。う。用。ぐ。を。り。ふ。漫。る。ま。え。と。う。ち。笑。へ。皆。右。理。と。雷。同。と。西。へ。戸。尻。よ。り。
て。う。あ。き。わ。て。あ。ま。を。掛。足。を。踏。締。声。を。合。と。曳。や。と。引。ぎ。破。と。外。と。高。と。共。み。積。よ。せ。る。

三の傍へ戸み先ひもく。頭の上み夜落と矢、庭み二人打倒さる。燈火まみ
挫滅す。吐嗟と騒ぐ思桶仰へ敵うち入つぬと叫びて。同士擊みて死と被り
逃ひどんとまゆの戸口の臼み柱らと。跣足轆度を失ひ。幸とゆうと
ゆうと義秀へそや外画み巨碑おほひをもむかと俟てをり。遣も過さど引組く。投
きえ踏ふみ急打殺を。抹首曳捨ぬけ所の振撲み半戸口み命參隕めいさん。裡画うる者
深瘻ふかうみよるやく。ゆゑくと叫びて。声をよろづよ義秀へ件の臼を轉ひらう。
丸く巣を潰つぶさ如く。引揚ひきあげて壓殺あつころ。投うて。もうち墾き一人も漏もろき。そ
うきて三四ツみよを翦ねら。庖福庖丁のくふ生なまとコア。婦女輩めらわのぬ抱いだと友鶴曉とも
見みふからまく。義秀ぎしゅうを伏拜ふくあいと。行丸ゆきわの刀衿とうぎんをもどり。ひきあ
資けよよる。身を獄ごくとぞ思ふ。還もどる。二親ふくしの歎かなたの霧きり。歎かなびの日影ひかげと
共ともふ霄あそゆく。世よ有あぐれ再生せいじんの恩惠おんけいへ高く。又深うす。佛山獄ぶつさんごくも三四の海うみ。

附肉を飣ふ。斧み納く。加賀次の婦人めり。みづう妙燈を引提く。庵福よ
鄰る一室よ赴き。又體どもの名義。同耳紙。耳紙。紙牌を附ると初のどくこを承む
件の斧み納く。處て庵福み立と。友鶴へ淀津の女子み冠を元へ俟てさり。
當下義秀へ婦女。刀ふうち對ひく。汝ホモ處女を扶抜き。門外よ生て口氣を
俟。近の轎夫ゆ彼ねへまえん。とくとくのそじ立まび。一人へ友鶴を扶引き。二人へ
魔平太ヶ首級。携へ耳を納ふ。斧を抱く。先ふ立ち。案内せし。義秀も
多ごも知る。佛經寺宝のあむりやきる。と禮もう。あきらめみくじ。どくろ物
争くあことスのまく。竟み母屋み火を放く。立坐く。又と云ふ。雲霄て鮮明
の月。う昇り。夜へ丑三の比。うとくろ。とも程ふ根ぬ莖平へ彼樹下ふ坐を
き。お。お。
白て更ゆ。まみ慮寒く。心細さのいゆまゆ。そぞくの天をうち仰ぎ。ひふ
ゆふとまうねよ。慈航寺のうふ丁く。火氣煽と燃あがみ。とうや暗号よ

後よりて。竹輿ふ諸肩衝入。被荒寺の門前へ直ちに立。す。この
主を美秀へ。外画へ立。友鶴ホリス共。頽橋のほとり。みを。根谷。六
三。矢。う。か。鉄。勇。さ。る。ん。竹輿を。立。じ。あ。き。汗。拭。ひ。跪。ま。
その大功を祝。せ。く。え。秀。魔。平。首。級。と。賜。と。よ。る。耳。示。し。く。其。餘。人。
悪。棍。を。鑿。み。世。よ。を。告。る。根。木。ホ。散。事。を。見。て。か。る。勇。者。昔。も。や。え。ぞ。今。せ
よ。世。ふ。き。有。ざ。る。郷。の。み。く。ア。ム。恩。澤。賀。ま。ぐ。と。稱。賛。一。件。の。首。級。と。耳。
ど。も。を。竹。輿。の。上。ふ。括。著。友。鶴。を。技。乗。く。息。杖。抗。く。擣。出。せ。ば。美。秀。ハ。二
人の。さ。る。子。と。も。を。先。立。せ。岩。神。の。郷。又。か。る。社。よ。判。五。が。老。僕。小。斯。ホ。ら。安
否。を。き。よ。あ。じ。み。告。ん。と。兩。三。人。を。一。隊。と。申。夜。よ。ま。道。或。ハ。一。里。郷。よ。立
こ。ろ。ふ。立。歩。野。火。燎。そ。き。一。今。美。秀。竹。輿。昇。し。ま。ご。ど。き。ま。入
ね。く。あ。つ。れ。延。み。そ。く。大。き。ふ。鉄。先。よ。と。先。へ。告。る。と。あ。り。出。迎。ゆ。少。う。く

後。途。よ。後。者。み。え。く。ど。か。く。黎明。の。比。及。ふ。裏。皆。父。母。兄。弟。稍。向。判。五。
そ。の。妻。共。宿。豫。く。門。前。み。生。迎。へ。辭。へ。き。て。涙。さ。う。ぎ。只。美。秀。を。拜。む。の。説。引
き。と。ある。と。立。く。友。鶴。竹。輿。を。裡。面。お。も。昂。へ。と。存。彼。三。人。の。さ。る。子。と。竹。門。主。と。奴。婢
お。も。伴。せ。く。こ。よ。る。も。篤。く。勦。せ。判。五。ハ。之。づ。う。美。秀。ふ。案。内。く。そ。び。も。書。院。ふ
接待。き。一家。の。飲。び。除。目。の。如。く。一。人。の。愛。敬。菩。薩。よ。う。う。甲。夜。よ。う。准。備。そ。う
け。ん。山。海。の。美。膳。數。を。盡。く。そ。の。饗。應。大。き。う。と。判。五。夫。婦。ハ。酌。を。執。玉。盃。と
勧。ひ。飲。ひ。父。述。く。美。秀。ハ。寛。平。太。ホ。七。餘。人。を。饗。果。せ。し。為。体。を。物。く。る。齋。一
方。首。級。刑。と。う。と。角。耳。を。と。う。と。あ。せ。く。あ。ト。夫。婦。ふ。示。を。ふ。う。ん。判。五。が。妻。夫
袖。を。露。し。面。を。背。け。く。よ。く。と。入。ぎ。あ。ト。夫。婦。ふ。示。を。ふ。う。ん。判。五。が。妻。夫
卷。く。遠。く。席。を。避。某。三。郷。の。長。と。よ。ど。の。人。の。頭。と。い。よ。足。と。ぎ。百。町。の。田。を。領
を。と。と。福。分。と。さ。る。ふ。足。と。今。不。憶。蓋。世。の。豪。傑。ふ。值。偶。し。あり。再。会。尤。難。

處き女兒を虎穴の中救ひ兎賊忽地滅亡す。鄉民安堵の如くも。此莫大の幸ひ。併友鶴が年來信トす。地藏井の利益多く不慮の資となり。ゆうけんと必ず由るをふある。よし。地藏井の利益多く不慮の資となり。明王の画像及拜をす。神前一本の白幣あり。誰がゆめりせし。と奴婢も向ふある。約くゆうど。地藏ハ不動の本地佛也。さうより地藏會ふ。彼懸物をうけし。かる寄特示させたり。天水まよ涙こぼまつて。馮愁しき。ゆうべうをゆうど。妻の媼も云々。と告ぐ。榮神酒奉添あり。神燈の数を倍。夫婦神前通夜あら。吉左右をやう。宿は果く女兒夜鶴へ差す。帰来より。件の幣をうそせす。とりひにく。老僕を召て。魔平太が首級と。則耳を次の房へ持退せ。判五も身を淨んと。う共々退アラ。且つて。恭ち。幣を捧く。あふまど。矣。あへ縁頬。立坐して。激だ。腰巾を西むふ受とりて。

三、戴きて床の間の中檀より。建々退々。あづみ。是全く明王乃
靈忘うこと疑ひ。某故郷。あはしたれ。不動の宣助。よりて親の讐言六人。
一夕。夢果せず。余る。小。昨夜。ようくも。こふ宿を投。す。對面する。
及び。床。明王の画像をうみ。又某が秘藏の大刀と。俱利迦羅と名づ。仇を殺。毒蛇を砍。余る。みこの刃の威徳。よし。給。といひ。恰と。い。あは。の
め。兎賊を殺。息女を救ひ。と。疑ひ。と。うひ。進。不測の功。さ。亦奇。う。と。説。諭。せ。判五。信心。諦。よ。感涙。拭ひ。え。曩。ふ。あ
ひ。さ。貴客の姓名を。す。よ。本貫。來歴。とう。あ。う。と。義の仇
人を。想ひ。ゆ。う。物。う。ま。に。傍。使。漾倉の和田廷尉。盛。ふ。一口。乃。名
劍。あり。迺。俱利迦羅と名づ。原。是。源家。の。付。宝。た。古。將。軍。幕。府。と。す。件
の。廷尉。賜。固。と。す。人の。夜。結。う。を。余る。君。腰。刀。も。又。俱利迦羅。の。名。ある。正。

必定縁故ゆゑん願うえ和君の家譜表歴詳々示一見と真ざりて回折ら。
松戸のあゆみ人あゆみひるそのひるの客人の物をまへ候ふみ及びと某巨
細ふ告まづまえどりひみて一個の老人友鶴がゆゑ被く徐々と歩み生まう。美
秀うへ紗まくとアキバおひけまくを庄司啜の一ニアキマス。何處つ小
とおかまふ。下トジヘうち驚き。又トジヘ飲びくのそく立て迎へどもと一三
わ禁め阿三郎恙うしたや。これへアドの食客へ和殿へアドの恩人へ且ゆ
所大功あり。今へ素姓を匿かまどよ。かまどむーの阿三アキアキと和殿ふコ
内を比きテ雲壤の差別す。この席ふ待たき。さよう元面白うるの云壤ら
きとまく上坐よをまえや。ちちゆくコガス不使せり。拟も去歳のその月某日折
よく船堀が夥兵を柱で和殿を落せし。件の夥兵へまう移くも吉備と捉て
放さる。巴口を浴びて辛じて刃を奪ひて刺殺。人目するまく足らず逃て宿处へ

選るゆゑ後難脱とまえん。とろべひやとまえ。そのタゞ不貯糧、腰不纏く
ちん。遂電。上総のまふ赴き。和殿が母ぬ不逐若んと名ひよまど隔一月。後まえ
竟めぬあり。さよとて近圓ふ隠きをが必入ふきよえん。加賀の富樫の莊客不
ふ亡母の遠類ある。送ふ年來疎闊されども、いわく見えどもとろびとびひとり
北圓ふ赴く。宿借まく。あらん向ハ相識人え絶く久く名告へ。コガス微細
が。告へ。あらん向。かの如く。この如ハ州異ふ。とも富樫殿の處分うらとこまえ
里正まふり。か賀へまく。かけども。今ハまろ人あるをばぞ遠を親戚を訪へ
よ。アラ。家不枝を駆めよ。和主一人が生涯へとあかとまく。とよふ憑くの意
し。あらゆまく。か賀へゆ。どうもあら不養。あらゆのまう忘くまでふ。
あら豐み世へゆ。かのと。鷺ども坐て食へ。心苦く。物休。と主人み清く



内外のう。老僕代とみ奉動をや一トせ送る。かく昨々不慮の危難
速ふ圓司又近。その武威を借る。あまざか。かまひき。と衆後決り。五言体へあや
の名代。富権歎へまよとく。後者一人をもく宿所を知。通宵走る。詫ふてや四
里あまり來つと。急忽地又ひつた。公書へり。ホーフ。と後者に向。あまごと答へ
さとべ。暸く。おとえ。公書を送り。ふたり。こども。と彼处へあたてもせん
まく。あま死す。やと。咲く。聴く。其れより引之。天明。く後。おや。く。ふ歸差
き。あまち。あまく。和敵の武勇。あやの。おび。これも疲勞をうち忘。い。その
壯夫を。下目えむ。やと。彼处より。廻窺く。又驚き。又歎び。下を。左を。朝夷三郎。
と名告。とろぬ。ハ大膳の阿三郎。欽と。伊勢。ゆき。と。左退。と。友鶴。と。ふ
由を告。稚枝の花を。老木の。押。出。榮せんと。はく。ねえ。と。と。み。う。り。う
み。今まう。と。桶の口の。彼巨石を落。せ。も。神の所。あま。あま。う。き。寔。小和

敵。ハ孝行。義信。枝も。膂力も。世の人。み雰。ま。と。ど。入。が。ま。と。活。る。神。井。う。と
扇。を開。ま。く。あ。だ。立。扇。き。と。互。が。美。秀。も。ひ。け。う。ん。對。面。み。欽。び。氣。う。み
頭。ま。く。恭。く。と。公。膝。み。か。れ。恩。人。悉。う。り。欽。裏。み。特。小。聰。く。別。し。ふ。く。互。一
言。の。酬。謝。も。述。き。い。と。さ。う。公。苦。く。い。安。房。と。越。路。へ。北。南。百。五。六。十。里。隔。よ。う
そ。も。什。麼。り。は。と。じ。の。あ。と。舊。き。交。り。ひ。え。年。未。越。路。又。相。藏。人。あり。と。絶。そ
き。う。ア。ス。は。つ。と。ん。あ。と。の。翁。へ。壽。永。の。比。上。圓。第。一。番。の。高。旅。と。く。人。も。ま。き。と
東。金。の。橋。六。ぬ。と。友。鶴。ど。く。和。敵。の。假。父。豊。六。が。女。兒。小。蔓。と。と。と。と。と。と。
る。と。ぬ。一年。豊。六。が。長。を。病。著。愈。て。の。復。へ。ス。ま。く。貪。の。病。と。痛。ら。女。房。業。み
奉。公。せん。と。く。尚。當。歲。う。う。女。兒。小。蔓。を。親。あ。と。ぞ。ふ。と。入。え。れ。る。そ。の。時。の。其。の。
ま。く。小。蔓。え。を。上。巣。へ。遣。せ。へ。則。こ。の。一。三。と。と。う。の。所。縁。あ。ま。と。あ。と。の。翁。と。陳。

あよちゆどい
初輯第十六
東山と迎海汀の友鶴

声をかきひてあひぬ。己が面とおもてみよ父へかゝぬ黄泉の客。毎へ廻國
とまゝやま。いづく
斗藪の凡何國す。あうとあう雲の往方定ぬ旅宿みへ言告やんむ。せば
遺憾だふ。まのまのまふ。あうと翁術夫婦。産の子の如愛慈。この年季
が養育恩義へ須弥もあはれ。低う。彼厄難を救ひ。其功あ。豊
夫婦が翁よ酬ふ端とも思召ね。と席を避。手と鼻で功よ夸。と親を言葉の
露。よ衆人の諸袖濡。毛秋の雲。ゆゆ。郷の物語よ。とぞ。友鶴の涙の
水際。さるをあくも。脛より長き袂。ゆめたち。ゆづる懷舊悲歎。一声よと位沈む。
あまちひどい
初輯第十六
旭と迎添の友鶴
風よ吟ち。溪の觸體
判五小膝と礎と拍。原来客人朝夷生。友鶴が実の親大瀧の豊六よ養れ
う。お此欣現情縁へ離れ易く。天縁ハ空ト。と世の常言よ毛わら。

某遠く上総を去て。年來當國と住ひちうど。さぞ不審やれん。固より
凡智鷺才あれバ陶朱^{トトロ}が富と学ぶよあらず。子貢^{トトロ}が貨殖^{トトロ}とらう劣めあらず。
越中^{アツチ}の父母の國。則先祖の本領^{トトロ}。壯年の比故郷を離れる。且く上総の僑居^{トトロ}
活業^{トトロ}のあふて。親族の故國をもべへ半五へ則兄^{トトロ}が名ゆて。婦員三郷の
里正^{トトロ}。原毛平家譜第の侍。越中二郎兵衛尉^{トトロ}盛嗣^{トトロ}が名ゆて。從弟上総
五郎兵衛忠光^{トトロ}が名ゆて。かどぢある氏族をれど。父祖累代の農家^{トトロ}と仕^{トトロ}
されば。その名ゆゑを。平家ハ西海の波よ沈淪。盛嗣忠光亡びよけと。うが
兄弟よへ崇むちく。舊より由^{トトロ}ニ二郷の長^{トトロ}。と國司の恩命。田園世帶
安堵^{トトロ}。財よ更に缺ねども。兄判五^{トトロ}よ子もなし。某^{トトロ}も又子を。举せ。平家世
ぞうとあじと。忠光^{トトロ}が所縁^{トトロ}よ就く。某^{トトロ}ハ上総よ赴た。木綿乾鰯^{トトロ}を賣買
をく。八州も^{トトロ}花主^{トトロ}。利潤年^{トトロ}よあつと。ども家^{トトロ}よ不足^{トトロ}いすども。文の

子を養^{トトロ}ハ。実子生^{トトロ}と俗^{トトロ}よいつ。うそ女^{トトロ}の子を。とぞ。お^{トトロ}。あハ
あきえ。凌江^{トトロ}ハ。如此^{トトロ}の赤子^{トトロ}をあま。そぞ親^{トトロ}ハ。豊六^{トトロ}と。貧なれども。舊家^{トトロ}。
件^{トトロ}の女^{トトロ}を賄^{トトロ}。と銀^{トトロ}と媒^{トトロ}。嫁^{トトロ}す。あつ。その人^{トトロ}と一三爺^{トトロ}と。素^{トトロ}
相識^{トトロ}人^{トトロ}を。立地^{トトロ}よ熟談^{トトロ}。里方の媒約^{トトロ}。一三爺^{トトロ}も對面^{トトロ}して。
元暦元年八月。下旬。福祿の中^{トトロ}養女^{トトロ}小蔓^{トトロ}を。上総^{トトロ}迎^{トトロ}。よ約束^{トトロ}され
産^{トトロ}の親^{トトロ}。豊六夫婦^{トトロ}と交かせ^{トトロ}。あづち。僅^{トトロ}よ三年。歴^{トトロ}。文治二年の春^{トトロ}比。
某^{トトロ}が兄稻向判五^{トトロ}。時疫^{トトロ}の病^{トトロ}よ嬰^{トトロ}もて。鍼灸^{トトロ}菜餌^{トトロ}の効^{トトロ}。身^{トトロ}も^{トトロ}
日^{トトロ}。嫂^{トトロ}も亦病^{トトロ}がひく。これもむかくならぬ。故郷の信^{トトロ}。見え。夢^{トトロ}はを
骨^{トトロ}うち騒^{トトロ}だ。哀^{トトロ}。悼^{トトロ}。その甲斐^{トトロ}。嫡家の断絶^{トトロ}この時^{トトロ}と。ふひれ^{トトロ}れ
そ^{トトロ}ばかく^{トトロ}てあつた。うつて。上総^{トトロ}へ羈旅^{トトロ}のよ^{トトロ}。あれハ。家産^{トトロ}をきわ。妻^{トトロ}を
携^{トトロ}速^{トトロ}。故郷^{トトロ}へ還^{トトロ}。兄^{トトロ}が家督^{トトロ}と。義嗣^{トトロ}をつぜ。その通稱^{トトロ}たゞ。大橋^{トトロ}六^{トトロ}

あくと。更めん。稻向判五とたゞうつ。親兄不ハ及ばず。里人ふす憎む。一家あく
繁昌せ。この比ウ。養女小蔓と友鶴とゆえく。掌の殊醫の花と愛
慈ニ育む。隨心操いと優く。孝行も大きく。容止さへ儕稀あり。少女
小かなく。やうづく。以へ人の子を。エガ産のみと欺く。と愛ちよ。仰く心
険う。実の子かも不孝あり。養ひ子か。至孝あり。匿果んへ罪ふ。とひ
つ死く。雲妻時。もは。竊。妻とうも相譚ひ。女児を召て云々と説諦せ。ハ
渠が年。十三の秋。たゞ。友鶴ハ養女あらう。が。而て知るてうち驚き且愧
ふ。ちぢち。よ。親の恩だる。喻るふ物。ゆねど。而て襁褓の中にて。
養ひとられ。し。多く。ハ。あ。ハ。産の母。実の父。よ。弥ま。て。おん慈。ぬ。されば。
口つまでも血を。よ。父母と。そぞひ。まれ。とふ。かく。や。二。鞋。の。隔。絶。て
候。ぬ。雖。慈。垂。乳。母。の。ち。胎。肉。を。十。月。が。間。苦。り。う。タ。産。の。思。あ。き。す。

あく。ぬ。倫。ひ。よ。侍。を。生涯。あ。生。れ。ど。も。か。の。二。親。も。恙。な。く。百。歳。まで
り。と願言。一ト。く。殖。つ。舊里の。そ。う。ハ。西。や。東。や。あ。く。移。び。を。あ。る。
あ。く。と。そ。あ。く。よ。向。く。音。よ。な。く。と。も。甲。斐。か。だ。り。よ。作。る。や。う。と。ぞ。う。う。答。て
あ。く。ち。ハ。安。房。の。安。文。字。も。ひ。が。き。だ。孝。行。一。ト。ハ。真。成。よ。す。隔。る。と
え。え。ぞ。こ。の。比。よ。じ。て。友。鶴。ハ。地。藏。尊。寺。の。本。尊。と。殊。さ。う。信。ド。す。毎。日。
讀。經。怠。ら。ぞ。祈。願。の。筋。を。告。ね。ど。も。存。や。亡。や。も。定。く。な。く。ぬ。産。の。親。は。二。世。
安。樂。養。父。母。の。為。ま。よ。こ。の。大。願。を。獲。せ。な。ん。と。そ。バ。と。憑。く。親
ち。づ。く。た。孝。女。き。き。大。功。德。空。ー。く。祕。バ。去。歳。の。秋。一。三。爺。が。ゆ。ぐ。
か。の。舊。里。の。よ。祥。よ。突。え。豊。六。夫。婦。の。死。去。道。世。和。君。が。孝。行。復。讐。の。
そ。の。顛。ホ。を。今。又。う。ご。と。す。か。よ。く。知。る。と。を。ゆ。く。う。し。べ。和。君。と。母。の。の。
往。方。い。う。み。く。と。想。像。ゆ。友。鶴。が。心。の。裏。か。量。も。て。痛。ま。く。せ。く。

妻といひ歩く。漸く。日もひひだ。と。と蕭やうめ物ぐれ。判五ヶ妻の鼻
うのうえ。孝女。誠を。神佛憐と。去歳の秋ハ。やうな。
一三爺。環會。又。秋。朝夷。の資を。借る。が。母北尼
御前の所在。ちう。な。御前。所。改め。朝夷。小物
あ。さ。び。うち。な。や。ハ。よ。友鶴。改め。朝夷。小物
盡。あ。ハ。せ。と。の。が。ぬ。と。き。く。う。い。よ。も。直。産。の。母。実。の。父。子。面。う。
窓。ま。うち。先。う。の。涙。は。は。鄙。の。田。舎。の。ば。せ。く。も。あ。や。いつ
ま。も。この。妙。足。体。ま。て。舊。里。の。あ。方。の。物。ぐ。う。を。や。せ。ぬ。秋。の
夜。と。長。とも。せ。明。あ。ん。只。願。一。た。か。の。す。み。と。ひ。あ。べ。又。伏。沈。六。
一三。呵。こ。と。う。笑。ひ。か。る。や。で。会。筵。よ。や。酒。を。ど。ぼ。そ。と。涙。そ。ぼ。と。

何よ。せん。阿。三。づ。ハ。去。年。の。夏。う。一年。あ。ま。う。の。旅。宿。小。河。物。語。あ。ん
べ。が。それ。父。翌。も。や。あ。ん。愁。を。掃。玉。幕。ま。づ。盃。を。と。効。き。バ。判。五。妻。の
ほ。う。に。お。よ。そ。潛。や。う。う。ち。相。譚。ひ。て。笑。つ。一。三。よ。う。ら。對。ひ。今。友。鶴。が
ひ。ー。ゆ。そ。和。殿。ハ。何。と。笑。う。や。ん。某。夫。婦。も。亦。女。兒。と。お。か。ド。も。お。望。願。望
あ。う。和。殿。ハ。固。よ。朝。夷。め。と。志。を。も。効。き。あ。れ。る。大。き。な。く。ぬ。縁。者
な。き。巴。挽。撕。く。び。て。ん。や。と。い。れ。く。一。三。頭。を。傾。け。莞。尔。と。笑。て。あ。や。鳴。に。
僕。既。よ。猜。く。う。お。な。女。婿。を。擇。く。あ。よ。つ。あ。ざ。あ。う。よ。稱。ふ。う。の。な。
く。み。う。お。あ。う。ぎ。と。向。きて。夫。婦。ハ。笑。片。向。き。と。ハ。も。か。れ。な。友。鶴。と
彼。人。と。お。小。箇。ん。と。を。願。へ。と。し。ば。渠。よ。向。で。も。あ。べ。と。され。と。と。朝。夷。
明。よ。こ。う。世。帶。ハ。不。足。あ。ん。お。あ。く。女。婿。よ。招。か。く。ど。も。迺。女。兒。と。妻。ト。て。
發。迹。か。時。あ。う。送。ア。遣。う。と。や。の。媒。妁。と。他。莫。だ。六。

一三へ。好くと應あへ。もうも咳起て小膝を進り。阿三どみ。目今やうく如し。
あすの翁、豊六夫婦よ。大うごとなぬ恩義あり。言をう起らる縁談と
和殿否とへいれ。あす。媒姫ハ一三えられも否とへいふとあす。うけ
まくむれ、義秀改て貌を改め。寔みあすの好意歎へくじ。どもみ後のみ
うけうき。とへせも果ばとへいふと詰し。畢竟余とうも微笑縦骨肉あむ
とも。友鶴づく実の親ハ某ふも亦親へ既よその親あかド起時、彼と些と
兄弟なづび。この婚縁ハ兼うじと推辞バ。一三頭とうち掉て。いきく
それハ僻言へ和殿親子づ別と見。母の教訓長物語。ゆくと、翁、小
竊坐て。これみ原を既よある。葉み、和殿が乳母。豊六、乳母の夫。主従
小一て親子よあへ。と彼葉み、教育を。和殿ハ何と笑へ。うき
世ふ、培養子。養子妻とゆとあ。その親ハもとも骨肉あくね。

婿とひひ又養子ともひよかひびや。忌諱論もよすな義と。今みのあれ
和殿が食く。和田廷尉義盛め。どひを義秀を抗く。推禁おぐち
笑ひひぞれす。ひよもす。いぬ。いぬ。和殿が素姓を云云とよく知るも
辞別の夜図らばも竊笑せ。一三が外絶色也。義盛の勘當免もて。
鎌倉一帰もみひ。和殿ハ誰と親子ぞや。あゝも先祖ハ伊勢平氏越中二郎
兵衛盛嗣の親族なれ。男ひ一てもづくらひ。是彼りつて良縁。けり
久と練り。義秀ハ手を又記。沈吟ドて応せ。且く一て頭を撞。義らぐ
緯の趣みかほ。よ覺れバ今ハ脱き路也。あう、あれ。ふ。察へ観よ勘當
かは許され。世よ浮萍の浪人なり。妻を娶り。子と産せ。後の榮を願ひ。や
一世の勇を輝く。國家の為よ身を殺して。美名を赤せよ。歴々と
え後をう。免く。と再三び推辞。判五。毫も後を草書めを

和田殿のわん子ことハラヒもかけぞ。鳴乎あら婚縁慚愧不堪。現俱利迦羅
一万ハ向ひでも由來歴く。名家の子孫とゆくと紀。ソモニ己が紀初より
あり。願ひ六女兒友鶴を。篠山とも側室として。やへ子を産せぬ。某が
嫡孫へとらきて家を嗣せん。某今茲五十六歳。頭は既よ白くかし。筋骨は
かほ健。幸ひて上壽をたまふ。孫が生育見る。かくの如くあると。然ハ
和君は妻なく。側室あり。子あり。とりともなれ。かくてもうけ。
みなし。と辞を盡せば妻を又繰返し。復テアク。一三共侶口説よ。又
義秀も妻嘆息し。ちハ郡を婦員とす。婦員ハ則。婦女異員。妻め
うそ義秀。あくよ脱れぬ名徳。自性。欲子のあり。父力のよく。も
西。あく。さる。おぼつかな。妃縁。なれども。かくまで。よハ。口を推辭。
人の情あじ。とい。某下野の足利。旅宿せ。日信あら友二人を。ゆう。引く

うそ。来春。ひゆ紀を問ふ。と約束せし。又の里を過じ。亦彼友の
紹介。老加賀國石川郡小松の郷を。莊官が。す。佐味竺内高利。とす
此の家を。あじとせ。あら。かくて。今幸よ。あよ縁者の資を。ゆ。左味を
憑む。ひ。と。彼處へ。ひ。お。紀を。對面。云々と。佐味。告ぜ。され。一言の
約。背だて。友よ信を失。か。が。久く。く。い。ぬ。と。左味を
判。五。うち。点。限。春。かも。なく。下野へ。赴。た。ま。とも。妨。か。但。彼。加賀。あ。竺内。ハ
今。小松の郷。よ。と。彼人。蹴鞠。を。よ。も。と。京。鎌倉。を。ゆ。え。新。將。軍。賴。家
近。屬。蹴鞠。と。好。ま。を。と。ハ。件。の。佐。味。竺内。を。鎌倉。召。よ。て。近。習。の。後。よ。如。り。
又。竺内。が。親。莊。官。ハ。今。年。の。夏。頃。死。て。往。あ。る。の。職。と。嗣。ぬ。彼。處。へ。赴。か。夢。た。
き。の。益。あ。る。と。が。ね。る。遠。く。も。あ。く。ぬ。地。方。か。遊。歴。の。る。な。く。か。赴。せ
ゆ。も。可。竺内。が。逢。ざ。か。ん。と。と。も。て。義。秀。も。殺。鷲。を。も。あ。ざ。く。彼。人。を。

心あくよ小松山へ進退究竟して舊藏経者とまよ逢ひ一か一毛くも
幸ひ。さき僧侶のまよと、ひとゑがき所ある。疑ふよひどもその人の
宿所とも。アドアとちひ止ゞ死。紹介の書状ある故に急ぐ死とわざを
うち捨て、お死じ。といふよ判五ハ感嘆。毫は和君ハ信義よ尊し。辛のと
そひ某吉侶よ加賀よ赴た。ツハ内が宿所へ業内へツハ富権殿へ
先賊退治の趣を許く首級実槍小僧あんぞ折和君ハ介殿富権よ對面にて。
勇敢武略の為体。且和田殿の孝子なるよ。明く地よ告なぐ緯鎌倉小
上達して召出さむ。なほ人。更よ踵を旋モ。この後ハいどと真ざる。
向バ義秀頭をうち掉じ。よや鳥合の山賊們十人せん撃こうと。功名と
ちよ足らゼ。かぞうの小事をも。恩賞を乞ひ帰来を祝ふ。乞う愧る
所。義秀がゐるを知ひぬ。魔平太が首級を富権へ送らむ。このより
禁一ヶ。判五ハまよな。一三ホハ顔うちあつて嘆賞。吾們草野の細人
なき。バ絶て勇士の本意を知り。もぢゆゑがくもひづれ隨むの意ひ。悔る
とな。友鶴がうへうけ引ひ。と又他吏を多く賠詰。義秀ゆゑく
も。衆皆大笑ひ。壽を述。更よ盃を巡しつ。之の曉音よ序を書た。
稍盃盤を納めたり。園宅食疲勞よどき。甲夜ようちゆく臥つ。定津猪を
加賀澤へ。豫く緯の趣を知せず。却説次の日。彼三郷の里人よ。別立

宿所よ詣來つ。恩と謝。飲びと述被、某甲づ女児。されば某しが妻
とも。秀秀がねてうじ。婦女们を乞うつ。目も羞ぞ抱くもあす。或ひもを
ちるて泣くもあす。れど見て又笑ふもあす。醉ふる如く。醒ふる如く。哀む如く
歎ひう。且くこそ甲人余ふもろ歩よ目をおひ。爺達つよらすゆん。當國の
立山ふ。乞う世う。なう地獄あ。件の山よ籠るゆれ。亡者よ逢ふ。とせゆひ。ど
定うる。是ハ正く。鬼よ捉まそ。紺の山へ逐竜られ。あすとく紀妻女見。が。
甦く還り。あよな紀利生。いと有く。起すりなづぐ。と一入き。バ皆忘却。
淨土山の佛の聲もや。及ぶぬ。と拂ひ。亦。弥陀。則朝日奈明。あの土よ覗
あみひ。教ひ。らしき。よその恩徳を。忘る。など。と喜び。く礼拝。食
儀づく。退け。されば。うち。うち。彼は隠れ。を。婦負。新川。射水。研並。
九四郡の良賤士庶。欲する限。も。貪た。衣を。售て。家よ置酒慶賀。

近江、勇士とおぎまんとそ。苞苴を餽。名簿を投く。判五が宿所群集
せう。あれども義秀ハ物をもあきを受む。况對面もろとほ。さうと
沙汰せそ。と口を鉗りそかへせ。が。いよ。ももく。稱噴して。名ハちのづき。まえ
う。が。それども稻向判五ハ義秀よ禁やれ。件の辯の赴を富樫介
訴。魔平太が首級と則耳を。地藏尊寺の側より埋。夫婦ハ
本堂へ参詣して。沙金十両を獻。友鶴義秀が爲す冥福。祈る
と他更なるも。兜徒の一條墨。あ。ト夫婦ハ更ニ三と相掛けて。
黄道吉日をとつて。友鶴をゆそ。義秀が側室と。正しく夫婦と唱給
ぐ。婚姻の規式形のとくとも行ひ。一家の歓び。彊たぐ。百年の契
濃。洞房花燭。夜を連続て。男女の間疎。も。盧生。が枕覚とあ
なく。槐安の樂。竭。竭らむ。あじ。どうえく。とや。じかく。そくちぬ。衣を

襲ま九月の節供を豊より迎て。稻扱納里へようふ暇。而兒時れども、義秀がをともちく。閑暇よほとく。倦果つ。佐味が宿所を。爲て見合や。と豫て。之バ久より。友鶴よ告。あすよ告て。行裝を。をがせ。判五ハ笑くうち。微笑ミ。佐味が久ハ。とまれかく。彼地よ。授歎。後者兩三人。あるく。之。彼根介莖平ハ。拘。あらう。ぬ。く。り。之。彼下を。おて。赴だ。と。叮囑。よき。われども。義秀。つる。従。之。従者。あつて。心苦しく。煩。れた。途。果敢。ざ。今。出来。秋の。寂。中。か。て。一夫。も。當。平の。折。あり。よき。よ。利用の人を。勞。して。又。何。か。う。ハ。ち。り。よ。あ。ん。佐味。が。宿。粟。な。だ。り。ハ。豫。て。あ。る。所。へ。但。紹。介。セ。ー。吉。見。冠。者。よ。再。会。の。折。如。此。正。く。告。ん。る。な。ま。バ。幾。日。も。あ。く。で。還。こ。来。な。べ。と。が。隨。よ。ち。旅。こ。よ。され。と。う。け。も。引。往。ば。あ。う。ト。夫。婦。ハ。揃。ひ。て。さ。そ。を。止。つ。ま。る。役。よ。義。秀。よ。

結旦啓行。て。加北の小松。よ。赴く。也。假深の旅。を。バ。緩歩。逍遙。して。途を。つ。そ。が。岩神。を。出。す。第三日の亭午。の。は。佐味。竺肉。が。宿所。よ。あ。な。く。云。の。よ。を。り。す。果。て。判五。が。談。浅。よ。違。い。を。竺肉。ハ。柳。營。よ。召。出。し。く。鎌倉。よ。あ。づ。か。て。今。の。莊。官。河北郡。富。樞。よ。來。る。し。ま。ご。下野。よ。相。織。人。ある。と。を。吹。き。ぞ。竺肉。よ。所。要。あ。づ。バ。鎌倉。赴。だ。と。よ。ま。よ。す。そ。義。秀。ハ。紹。介。の。書。を。出。さ。ず。姓。名。を。も。告。じ。て。や。ぐ。て。其。れ。を。立。ち。り。豫。て。期。する。と。あ。づ。と。よ。ま。よ。立。く。ら。ん。あ。ま。う。よ。奥。は。當。國。よ。ハ。能。美。の。溫。泉。又。江。沼。の。山。中。よ。溫。泉。ハ。あれ。既。よ。谷。と。異。な。く。だ。奥。の。出。羽。や。う。羽。黑。山。中。よ。亦。地。獄。あ。う。と。て。皆。是。浮。屠。の。方。便。て。深。山。大。澤。嶮。岨。の。地。よ。ハ。れ。人。恐。怖。ま。る。と。す。よ。う。て。こ。ま。を。冥。府。よ。擬。し。う。

と體義羅俱
觀の秀ひ山ま利り
る怪觸よ伽う



後人蛇足附会にて。三十六地獄の名を負し。愚者婦人と威懲して錢を召の因とも。地獄の制度も金と云ふ鄙俗へ定かたりたや。とぞうことてよも凡そ妄用の旅日を費して妻夫小ねをせせん所など有繫ふるひくせゆきかづさゆ、途をうえて越中國磯並郡俱利伽羅山と通る小道。この地ハ加越の封疆小一せ。壽永二年五月十一日本曾冠者義仲朝臣平家の大軍ハうち捷て数万騎を黒坂の南谷追落し賸敵將知度為盛貞康ホモ悉皆とうる地方ナ。嶺より宇の道場あり。昔越の大徳。今山より登て千歳瀧より身を撲して。俱利伽羅明王の祕法を行ひあひぐ。瀧より神龍ゆりて大徳を守護す也。ぞれにてこの山と俱利伽羅嶽といふ。松永。小矢部。柳原。笠野。富田。竹小橋。又かくら山と相並て。源平當時の戦場なり。義秀の峠を踰る紀日、

暮るにて風膚を犯し。道と遠して人既に疲れず。直下せ。深谷を帶え。燐火青苔の巖より肉を向上と。高嶺天より横りて遊魂暮雲中より呻み離る。路傍の草は花。紅叶て。戦死の鮮血より深る。とく。墨くろ。谷陰の白骨。ハ半朽く。老枝怪松を肥せ。棘ともうあら鬱浪な。と碎く。後ハ名のむか。亡父の智畧。一世の英雄。う。俱利伽羅の嶽より。高た歎績。今あよ。迹従ぬ古戦の分野。榮枯得失。一叢の烟と。そばに墓なり。哀うか。とぞう。ごちて。ゆゑのしやく。谷底と。直下して立む折。忽地夕霧立ち。其處とも。ゆゑの谷の中。數萬騎の悶々声。曳く咄と。發動して。具鉢の音。馬鑣の音。矢叫ひ。太刀。慘凄ト。彷彿とて。合戦の場。よの身を置く。毛骨のよがれ。されど。義秀。爲立も去ら。睨む折もあり。颪と吹揚の風と。共に。宵のあま。鬼氣也。

あり。拂ひもあらず。合ひとあらず。又ギバ人の觸體を。嗚乎なうりのよと取る。而して。
そがまき。谷捨人をも。後のこよ声あらず。三郎ぬしくと。两三声喚うけろ。
コラ名をあらむ。什麼誰也。と向あらず。モ信とえく。五尺あまり地を差す。
直躬と立ち武者一騎。白地の錦の鎧直垂。白精好の奴袴を張せ。草履
威の鎧穿て。白星の兜を戴た。廿四差うち。白羽の矢を。苦高を負ふ。一。
白木の弓と小腋。握く。白馬と白鞍。置て。水色の厚繩と掛け。下から騎
す。現その姿の為体。この陽人とも見えざり。美秀ハ又問答せ。間近
より。巴切ちく。人との刀の鞘。よもとうけ。疾視あらず。そ立とう。

朝夷巡嶋記全傳第二編卷之三終

朝夷巡嶋記全傳第二編卷之三終

其義をかくひて 蓬生

